

車椅子に求めるもの（車椅子との歴史）

新潟 H. T

車椅子は言うまでもなく移動の手段です。受傷から1年後位だったでしょうか、吸引器を載せられる台が椅子の下についた特注の手押し車椅子を交付してもらいました。それまではストレッチャーで1回/月位の入浴のために病院内を移動するだけだったのが、頻度は同じ位ですが病院に隣接する小学校に散歩に行けるようになったことは、私にとっては長い療養生活におけるの楽しみになりました。次の特記事項は、受傷3年目位に病院の電動車椅子を使わせてもらったことです。自分の自由に方向を変えられることは革命的とさえ言えるものでした。ただ、電動車椅子を操作するには、相当ギヤッチアップする必要があり、起立性低血圧と折り合いを付けるのが今でも課題になっています。

今の車椅子は上記の病院からの貸与品を入れて電動3台目ですが、2台目までは特に工夫もありませんでした。基本仕様には不満がなかったのですが、それまで呼吸器と吸引器をヘルパーさんにキャリアカートで運んでもらい移動時は呼吸器を利用しなかった（私はある程度自発呼吸があるので、1分くらい移動しては車椅子をギヤッチダウンして休憩することの繰り返しで、これは疲れること半端ではありませんでした。）ですが、まず呼吸器の機種を変えて小さいものにしてもらい車椅子の後ろに括り付けられるようになって、呼吸器を使いながら移動できるようになりました。さらに3台目においては、車椅子の後ろに吸引器を載せる台をオプションで付けてもらい、これでヘルパーさんへの負荷も小さくなりました。

次に車椅子を新しくするとしたら、今の3台目の仕様で特に問題もないのですが、バッテリーの性能向上を期待したいと思います。というのも、今の車椅子においても入手1.5年後にはバッテリーの交換が必要だったからです。以上、私の車椅子との歴史を書かせて頂きました。



最初の手押し車椅子



今の電動車椅子